

実績報告書

静岡県 川根本町立光の森学園		実施学年： 7年(中1) 生徒数： 11人(2学級) 実施教科等： 国語・総合的な学習の時間 実施時間数： 38時間
実施/参照プログラム	No.8 わたしたちのまちに言葉の贈りもの	



●学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ● 「川根本町の魅力 “P P 発信、～Photo & Poem～” 川根本町の様々な景観に着目し、その魅力に気づき、言葉を厳選して他に伝えることができる。
学 習 活 動	<ul style="list-style-type: none"> ● 川根本町の様々な景観（自然・人々・施設文化財）に着目し、そのリストを作成する。 ● それぞれの景観について、自分たちの印象や自らの体験をベースにして言葉を選び、詩を創作する。 ● クラス全体で写真を厳選し、詩を推敲して作品として完成させる。 ● 学習発表会で作品を提示しながら朗読し、川根本町の魅力を発信する。
準 備 品	<ul style="list-style-type: none"> ● iPad ● ワークシート ● パソコン ● 大型ディスプレイ ● CD デッキ
実 施 場 所	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内各所・教室

●学習の流れ

	場所	概要	活動記録	生徒の反応
18時間	町内各所	<ul style="list-style-type: none"> ● 体験学習 （接岨湖のパドルツアー、アプト式鉄道乗車体験、町内景観探索、地域の食材を活用したカレーづくり、弁当づくり 他） 		○ 訪問した場所のきれいな景色や出会った人々に目を向け、積極的に写真を撮影していた。また、発見したことや感動したことを記録に残していた。
4時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 詩の創作 学年行事で撮った1枚の景観写真をテーマにし、個別に詩の創作を行う。 ● 専門家(文芸評論家)講話 詩の創作におけるテクニックを学ぶ。 	 	○ 体験したことをもとに、個性あふれる詩をそれぞれの感性で創作した。完成した詩を専門家に評価していただき、より良い詩にするためのコツをつかんでいた。
2時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 景観のリストアップ 町内の魅力や自慢につながる景観を5つの視点に分けて話し合う。リストアップされた対象を、一人2カ所ずつ分担する。 	 	○ 川根本町には、観光地以外にもたくさんの自慢・魅力・課題があることに気が付いた。夏休みの創作への動機付けにつながった。
夏休み	町内各所 各家庭	<ul style="list-style-type: none"> ● 現地訪問・体験 分担された景観についての写真を複数枚撮影する。 ● 詩の創作 感じてきたことを詩に表現し、原案を作成する。 	 	○ 1学期に学習したことを意識し、それぞれの分担場所を訪問し、それぞれの魅力を感じてくることができた。その思いを文章に表し、詩の原案を作成した。
10時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 学級全体での推敲、選定 個別の詩をクラスへ提案し全員で推敲を行う。写真についても選定を行う。 ● 専門家(カメラマン)講話 写真の構図を学ぶ。 ● 作品・プレゼンの製作 	 	○ 詩の創作上の悩みを全体に問い、その解決に向けて、全員で議論することができた。推敲の回数を重ねて皆で話し合うことにより、工夫しながら幅の広い言葉の表現に触れることができた。
4時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 詩の朗読練習 景観の魅力や自分の思いが伝わるよう、詩の朗読を工夫する。 ● 学習発表会 保護者・地域に向け、川根本町の魅力を発信する。 ● 振り返り 	 	○ 朗読の仕方によっても詩の印象が変わることに気付付き、自分の思いが伝わるように発表練習に励んだ。当日は、豊かな表現力で発表して多くの人に感動を与えることができ、学習の成果を実感することができた。

●生徒の作品

『川根本町の魅力P P発信』 主な作品

(1) 川根本町の見どころ・自然



(2) 川根本町の歴史・文化



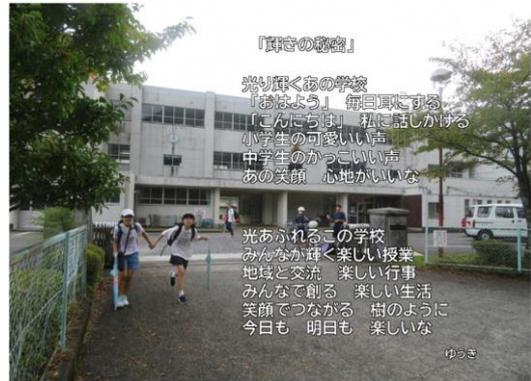
(3) 川根本町の自慢・特産物



(4) 川根本町の課題



(5) 川根本町の人々・暮らし



●先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- いろいろな景観に着目させるため、5つの視点（川根本町の「見どころ・自然」「歴史・文化」「自慢・特産物」「町の課題」「人々・暮らし」）に分けて、町内の対象物の候補を生徒全員でリストアップするようにした。
- 必ず現地に出向き、対象物を取り巻く空気を感じたり、実際に体験したりすることを大切にさせ、自分の五感を働かせて詩の創作に取り組ませた。
- より良い作品になるようにするため、個々が作った詩をクラス全体で推敲した。
- 作品づくりに生かせるよう、詩の作り方や写真の撮り方についての専門家を招聘し、それらのテクニックを学ぶ機会を設定した。
- 発表会では、詩をただ読み上げるだけでなく、表現方法にも工夫をさせた。
- 学級に景観学習の係を作り、生徒が主体的・組織的に学習を進められるようにした。
- 町のHPで紹介したり、地区の作品展に出品したり、オリジナルカレンダーを作成したりして、学習の成果を発信できる場を積極的に作った。
- 創作能力に個人差があり、生徒によっては詩の推敲に時間がかかった。昼休みや放課後などを活用し、2人の教師で丁寧に個別指導にあたった。

【生徒の反応】

学習の振り返りでは、生徒から以下のような意見が出された。

- 詩の推敲では、作った人の思いをどうやって伝えるか、言葉を探すのが難しかったけど、みんなで工夫して楽しかった。
- ただの文章よりも、詩に思いを乗せた方が、その場所の魅力を強く伝えられると思った。
- 言葉の選択や朗読の仕方によって、魅力の伝わり方も違うと思った。
- 今まで何度も見ていた風景でも、その場所の新たな魅力を再発見することができた。
- この学習の私たちの発信で、川根本町が少しでも盛り上がるとうれしい。

【教師の変化】

- 景観の魅力を発信するという具体的な目標があると、生徒はこだわりを持って言葉探しを行い、表現を工夫しようと追究し、国語の学習がより深いものになることが発見できた。
- 生徒一人一人と個別に面談しながら、その景観への思いを引き出す作業を行うことで、生徒理解につなげることができた。
- 自分の住む町に誇りを持った生徒が育成できたと実感できた。